

2020年教育カウンセリング・オンライン研修会 参加者感想アンケートまとめ

秋田県教育カウンセラー協会

研 修 会 「**地域社会と繋がり、学びに向かう力を育成する教育実践**」
奈良 恵子先生（秋田市立太平中学校 校長）

在外研究報告 「**アメリカと日本の幼児教育の違いについて私が感じたこと**」
瀬尾 知子先生（秋田大学教育文化学部 准教授）

◇研修会・報告会の内容について

- ❖ ・奈良先生の発表は、本校の「横手が舞台」という地域を活用した教育活動と重ねながら拝聴させていただきました。各学部ごとに取り組んでいるので、「運営協議会」という組織づくりが大変参考となりました。
*機材の不具合対応で前半部分がほとんど耳に入らなかったのが残念です…
- ・瀬尾先生の報告は、大人が主導権をもった対応や小中連携という観点から、今後取り入れて行ってもよい視点だと思いました。
- ・阿部先生と行った放課後タイムがとても心地よく、カウンセリング研修会としての意味合いが大きかったのではないかと思います。

- ❖ ・研修内容は興味深く大変有意義でしたが、時間に余裕があればさらに細かく掘り下げられたと感じました。
- ・パワーポイントの資料もいただけると、再度、詳細な振り返りに役立つのではないのでしょうか。

- ❖ 「〇〇の力を社会で生かす方法を考える人」 — 今回は、美術の力でしたが、他の分野でも適用できることだと思いました。また、自ら学んだことを子どもたちに教える体験も大変貴重だと思いました。これまで学んだことの振り返り、次への目標や課題が明確になったり、意欲にもつながることでしょう。
家庭や学校に居場所があり、自分を認めてくれる存在（親や教師、友だち、地域の人など）がいると生徒さん自身が実感として思えるとよいでしょうし、また、「自己有用感」（アドラー心理学でいうところの「貢献感」）は、生涯にわたって重要なキーワードになると思います。
生徒さんたちの美術に関する資質や能力と生徒さんたち自身の努力、そして、ヒューマンネットワークがうまく融合したプロジェクトだと思いました。生徒さんたちに多くの学ぶ機会を提供し、それを丁寧に手厚く指導・支援している様子が伝わってきました。社会で生かす術を確実に学んだ生徒さんたちは、社会に出てからも、自分の立ち位置で、ぶれない軸を持ち、人と人とのつながりを大事にしながら、歩んでいけるように思いました。
瀬尾先生の在外研究ご報告から、就学前の幼児期に育てていきたい力について考えさせられるものでした。保育者や教師などの指示を聞いて自分で行動に移すことができる、自分で計画して行動できる、感情をコントロールして他者と協調できるなどセルフマネジメント力を育てていくことは大事だと思いました。

❖ 各地で教育カウンセリングの取り組みをしていらっしゃる先生がいることをとても嬉しく思いました。また、実践だけでなく、しっかりと検証するためにデータも取っているというところも感心しました。グループでの話し合いで非認知能力の形成を、幼児期だけでなく小中高校を通して行うことの大切さを確認しました。

文化の違いによる幼児教育のカリキュラムの違いが面白いと思いました。とても長い時間を小刻みに分けて様々な活動を行い、活動の後には後片付けの時間を設定しており、時間を意識したカリキュラムだと思いました。確かに、スケジュールの管理などの力が向上するだろうと思いました。また、自立心を高める指導方法ですので非認知能力が高まるだろうと思いました。

他国と比較することで日本のカリキュラムについて深く考える機会が得られると思います。今後の研究が楽しみです。

秋田大会のシンポジウムは非認知能力にすると良いのかもとと思いました。

❖ ○ 地域協働プロジェクトは学校の特色を生かし進路と関わらせた魅力ある活動だと思えました。個々の力を生かし、高校生になるとこれだけ社会参加した活動ができるなんて、学齢の低い児童だけみてきている自分にとっては驚きでした。何といたっても生徒の持っている美術への基礎能力の高さゆえできることで、生徒の強みです。その強みを生かしてあげたいと感じた奈良先生の思いと行動力は学校の強みに！

でも生徒は強みがありながら葛藤するんですね。自分の才能と向き合うので、自己磨きの摩擦は大きく、成長しているのですが才能がないと感じるストレスが発生すると思います。(それも検証があって気付かせていただいたのですが・・・アンケート結果を見ながら、身を削るストレスを語る大学の美研、音研の友人の言葉や姿を思い出しました。)

自己有用感アンケートからそれを生かし高める場になる実践の展開がさらに期待されます。そんな有意義な実践をされた奈良先生、多才な一面をまたみせていただきました。ありがとうございました。次回も楽しみです!?(K)

○ 瀬尾先生、まず研修を終え、無事の帰国、本当にお疲れ様でした。そして、貴重なお話をありがとうございました。

日米ところ変われば教育も多様だと分かりました。でも、日米どちらも幼い大切な子どもたちを慈愛の目で育てている姿に何も変わりはないことが伝わってきました。

今日はほんの一部をご紹介いただきましたが、まだまだたくさんお伺いしたかったし、先生も語り尽くせなかったご様子に見受けられました。続編を期待しています。

(K)

❖ 研修会全般（実施時期、運営等）について

❖ ・ 機器等の不具合に対応できずに申し訳ありませんでした。参加された先生方には不快な思いをさせたことと思えます。

・ 司会と機器管理となると、余裕がなくなってしまうので、可能であれば役割分担ができるとういと思いました。

❖ ・ 昨今の状況を鑑みれば、開催時期とオンライン方式は適当であり参加しやすかったです。(可能であれば連休外の日程であればなお有難い。)

・ もっと多数の受講者がいれば、より発展的な意見交換・共有ができたと思うことが少し残念でした。

❖ ・ 同じ場所から研修会の配信をされた講師の奈良恵子先生、瀬尾知子先生、司会進行の藤谷淳一先生(協会理事)、本当にお疲れ様でした。不具合があった際に、フットワーク軽く、即座に対応されており、結束力が高さが伺えました。

- ・研修会と報告会はとても興味深い内容でしたが、参加者数が少なかったことが非常に残念です。今後、オンラインのよさを生かして、期日を決めたライブ配信による研修会に加え、オンデマンド配信等を検討し、より参加のしやすい研修会を開催できるとよいと思います。
- ・奈良恵子先生の研修会での各グループでの交流の時間や、瀬尾知子先生の在外研究ご報告についても、もう少し長く設けた方がよかったと反省しきりです。それくらい充実した学びの時間でした。お二人の先生方、ありがとうございました。

❖ オンラインなどの機材の使用に当たってはトラブルがつきものです。トラブルが起こった際の対応がスムーズであることが大切です。また、Zoomの使用に当たっては、最初は誰もが初心者です。それをカバーし合ってみんなが使えるようにしていくことが大切だと思います。そういう意味でしっかりした運営がされていたと思います。

参加者がもっと多いといいなあーと思いました。そこが大切な改善点でしょう。

❖ ・発表者のみなさん、そしてズーム運営の皆さん、事前準備から本番まで本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。契約から操作まで感謝です。

- ・たまたま見たNHK「ためしてガッテン」→“ズーム会議は普通の会議より会話が進まないのはなぜか！”ほんのご参考まで↓
<https://www9.nhk.or.jp/gatten/articles/20201111/index.html>
- ・オンライン会議では、目と画面の位置（視線）がずれている→なるほどガッテン！
- ・非言語コミュニケーションがとりにくい。
- ・視線がずれているオンライン会議なので、ずれないテレビも開発中でした。アイコンタクトが成立しますね。
- ・うなずきを時折やってみました。話すときは画面を見ず、カメラを見て話したりもしましたが、ますます宙に浮いてる感じでした(;^_^A
- ・瀬尾先生の続編を希望します。

—— 研修会に参加された皆様、アンケートへのご協力をありがとうございました。

オンラインによる事業開催に向けて、先が見えないことが多くありましたが、たくさんの皆さんとのかかわりや支えの中で、前向きな心で取り組むことができ、無事に研修会を終えられたことを感謝いたしております。今回の研修会を振り返り、さらによりよいものを皆様にご提供できるように努めてまいります。



2020年 教育のセリグ・オンライン研修会

～Welcome～

日 程

13:30～研修会〈実践発表〉
「地域社会と繋がり、学びに向かう力を育成する教育実践」
 秋田市立太平中学校長 奈良 恵子

14:10～〈シェアリング〉

14:30～休憩

14:35～在外研究報告
「アメリカと日本の幼児教育の違いについて私が感じたこと」
 秋田大学教育文化学部 准教授 瀬尾 知子